



3.すべての人に健康と福祉を
4.質の高い教育をみんなに



ブラインドサッカークラブで試合をしている様子。奥に見えるゴールキーパーは通りすがりのお兄さん。ブラインドサッカーは目が見える人との協力が不可欠だ。

ボールがあれば障害を超えられる

「ナイスワン!」——灼熱の乾季、気温40度を超える環境でも、生徒はうれしそうに叫びながら何度も何度もドリブルをくり返していました。JICA海外協力隊の障害児者・支援隊員として配属されたガーナの盲学校ではスポーツをする機会が不足していたほか、弱視と全盲の生徒の間に距離がありました。それらを解消する一助になればと思い立ち上げたのが、ブラインドサッカークラブです。

ブラインドサッカーを行うのに必要な用具がまるでない状態からのスタート。現地のテラー(仕立て屋)でアイマスクを作ってもらったり、溶接業者にゴールを製作してもらったり、日本の知人からボールを送ってもらったり、多くの人の協力を得てクラブ活動を行ってきました。生徒には技術的な指導だけでなく、時間を守ることや物を丁寧に扱うことなどの大切さをくり返し伝えてきました。派遣期間が終わる頃にはみんなクラブ活動開始の5分前に集まれるようになり、弱視と全盲の生徒も仲良しに。その成長ぶりを頼もしく感じました。

サッカーはガーナで最も人気のスポーツです。現地の人々に向けてブラインドサッカーの体験会を実施した際には多くの人が集まり、健常者と視覚障害者が同じフィールドでプレーしできました。障害を超えて理解と共感を深めあうことができるのは、スポーツの大きな利点だと思えます。今後もブラインドサッカーを足掛かりに、障害の有無にかかわらず、みんなが当たり前のように助けあい支えあう社会を形成していったらいいと思います。

今月の投稿(文と写真) ●羽立大介さん
青年海外協力隊2018年度1次隊としてガーナの盲学校に配属される。乾季の暑さが厳しすぎて1か月は夜間にほぼ眠れなかったのが一番つらかった思い出。20年7月より広島県JICAデスク、国際協力推進員。

あなたの投稿をお待ちしています!

「わたしが見つけたSDGs」に写真と文章をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題やその解決に向けた取り組みのエピソードなど、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。

応募要項:写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。
*写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先 ▶ ML_JICAPR@jica.go.jp (「mundi」編集部宛て)



SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。

持続可能な開発目標(SDGs)と
JICAの取り組み

